

## パラグアイ主要経済指標( 3月 )

### I 為替相場

(1) 対ドル(Gs/US\$)

3月の対ドル為替レート(Gs/US\$)は5,480Gsとなった。なお、2016年4月以降、変動幅が小さい。

(2) 対ユーロ(Gs/EURO)

3月の対ユーロ為替レート(Gs/EURO)は6,911Gsとなった。2016年5月以降、変動幅が小さい。

### II 消費者物価指数

(1) 消費者物価指数(総合)

3月の消費者物価指数(総合)は0.3%となり、年間累計値は1.3%となった。

(2) コア・インフレ

3月のコア・インフレ率は0.0%となり、年間累計値は1.1%となった。

### III 貿易

輸出総額(3月)は、対前年比-3.3%となった。(大豆種子-10.3%、大豆油5.3%増、大豆粉9.9%、穀物類-36.1%、牛肉10.5%増、自動車部品(ハーネス)17.6%増、電力6.7%増、その他4.6%増となった。)

### IV 外貨準備高

3月末の外貨準備高は、約8,775百万米ドルであった。

### V 対外累積債務

1月末の対外累積債務は、約5,601百万米ドルであった。

### VI 最低賃金, 失業率

### VII 実質GDP・名目GDP・経済成長率

### VIII 3月のトピックス

- 1 1月～2月、マキラの輸出が昨年同期比81%増加
- 2 チリへのパラグアイ産牛肉輸出減少
- 3 国際金融市場における国債発行
- 4 ラガルドIMF専務理事のパラグアイ訪問
- 5 「ハイレベル官民対話 アスンシオン・パラグアイ2018」開催

## I 為替相場

### 1 為替レート概要(月平均値, 売値)

#### (1) 対ドル(Gs/US\$)

3月の対ドル為替レート(Gs/US\$)は5,480Gsとなった。なお、2016年4月以降、変動幅が小さい。

#### (2) 対ユーロ(Gs/EURO)

3月の対ユーロ為替レート(Gs/EURO)は6,911Gsとなった。2016年5月以降、変動幅が小さい。

#### (3) 対リアル(Gs/REAL)

3月の対リアル為替レート(Gs/REAL)は1,661Gsとなった。

#### (4) 対アルゼンチンペソ(Gs/PESO)

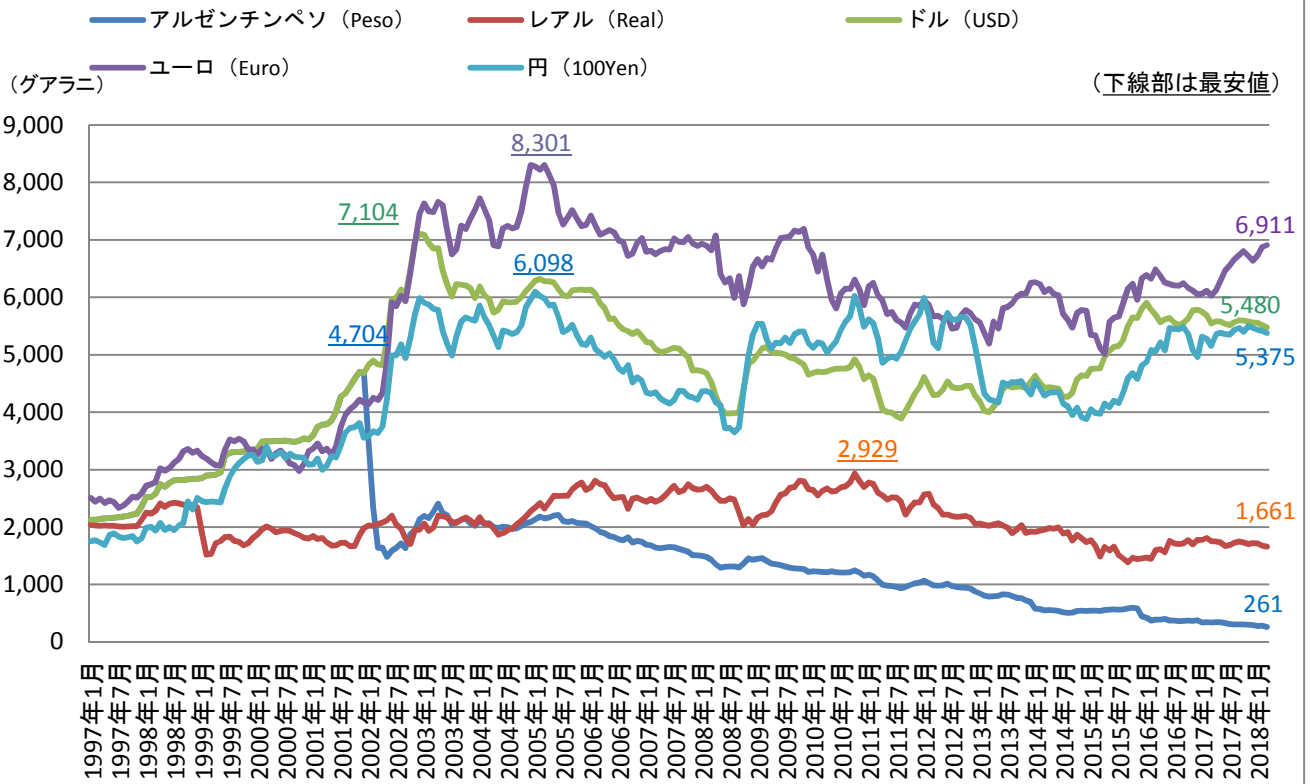
3月の対アルゼンチンペソ為替レート(Gs/PESO)は261Gsとなった。

### 2 為替レート表(月平均値, 売値)

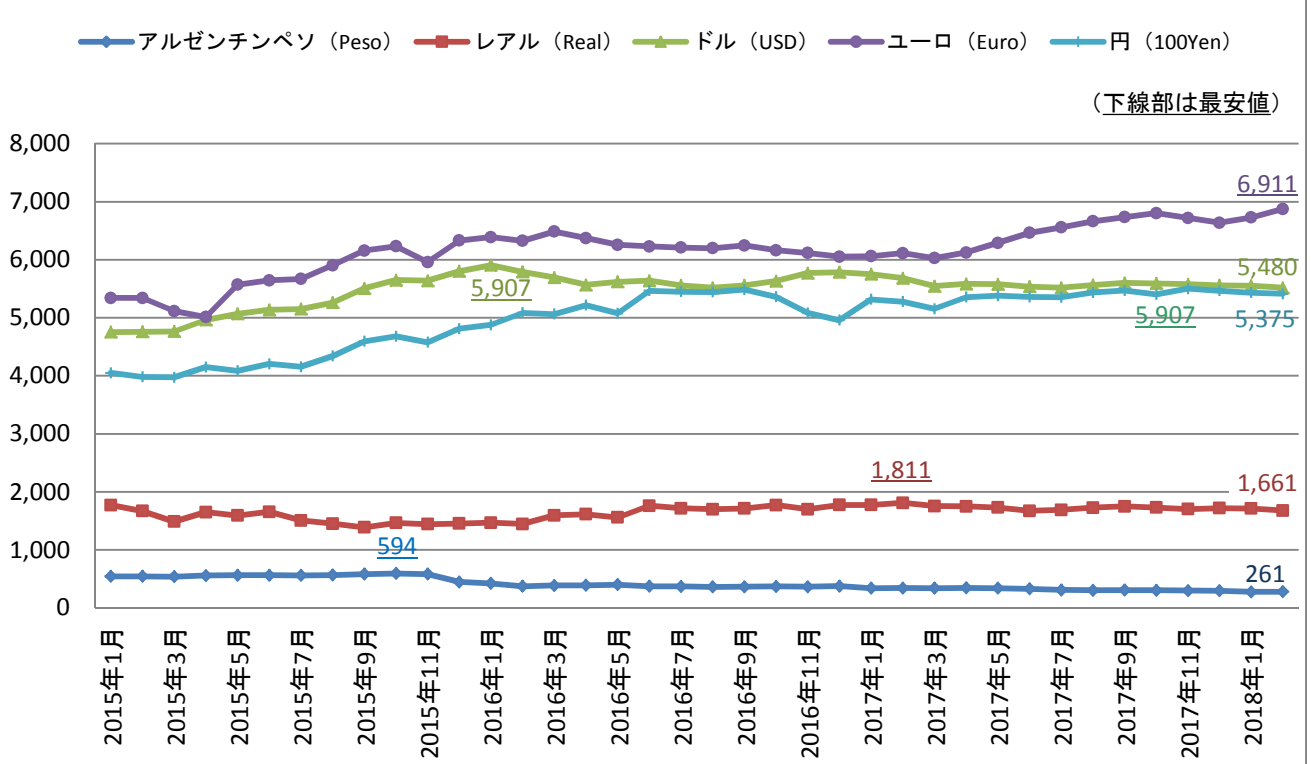
(2015年~2018年)

年/月	ドル(USD)	ユーロ(Euro)	リアル(Real)	亜ペソ(Peso)	円(100Yen)
2015年 1月	4,754	5,341	1,773	544	4,050
2015年 2月	4,760	5,341	1,669	546	3,982
2015年 3月	4,765	5,115	1,489	540	3,974
2015年 4月	4,963	5,013	1,652	557	4,149
2015年 5月	5,069	5,570	1,593	564	4,086
2015年 6月	5,137	5,645	1,657	565	4,204
2015年 7月	5,152	5,668	1,507	561	4,156
2015年 8月	5,262	5,903	1,453	567	4,341
2015年 9月	5,507	6,157	1,388	585	4,595
2015年 10月	5,651	6,233	1,466	594	4,679
2015年 11月	5,639	5,959	1,443	582	4,578
2015年 12月	5,802	6,332	1,455	447	4,813
2016年 1月	5,907	6,388	1,468	425	4,878
2016年 2月	5,792	6,325	1,448	375	5,084
2016年 3月	5,695	6,485	1,596	389	5,061
2016年 4月	5,568	6,374	1,614	390	5,216
2016年 5月	5,619	6,256	1,560	400	5,076
2016年 6月	5,639	6,230	1,761	375	5,464
2016年 7月	5,560	6,210	1,717	371	5,450
2016年 8月	5,517	6,200	1,701	362	5,445
2016年 9月	5,558	6,246	1,714	365	5,485
2016年 10月	5,633	6,163	1,772	371	5,361
2016年 11月	5,773	6,116	1,699	364	5,083
2016年 12月	5,786	6,054	1,775	376	4,957
2017年 1月	5,751	6,061	1,774	340	5,317
2017年 2月	5,682	6,113	1,811	344	5,278
2017年 3月	5,546	6,027	1,756	340	5,153
2017年 4月	5,585	6,125	1,749	347	5,356
2017年 5月	5,578	6,290	1,730	342	5,380
2017年 6月	5,537	6,463	1,672	329	5,358
2017年 7月	5,517	6,558	1,689	312	5,351
2017年 8月	5,566	6,661	1,728	306	5,434
2017年 9月	5,602	6,735	1,750	306	5,469
2017年 10月	5,592	6,804	1,730	304	5,402
2017年 11月	5,578	6,720	1,702	300	5,500
2017年 12月	5,559	6,637	1,721	296	5,467
2018年 1月	5,553	6,730	1,715	278	5,433
2018年 2月	5,516	6,875	1,677	281	5,414
2018年 3月	5,480	6,911	1,661	261	5,375

### 対グアラニ為替相場(月平均値)



### 対グアラニ為替相場(月平均値:直近3年間)



## II 消費者物価指数

### 1 消費者物価指数概要

#### (1) 消費者物価指数(総合)

3月の消費者物価数(総合)は0.3%となり、年間累計値は1.3%となった。

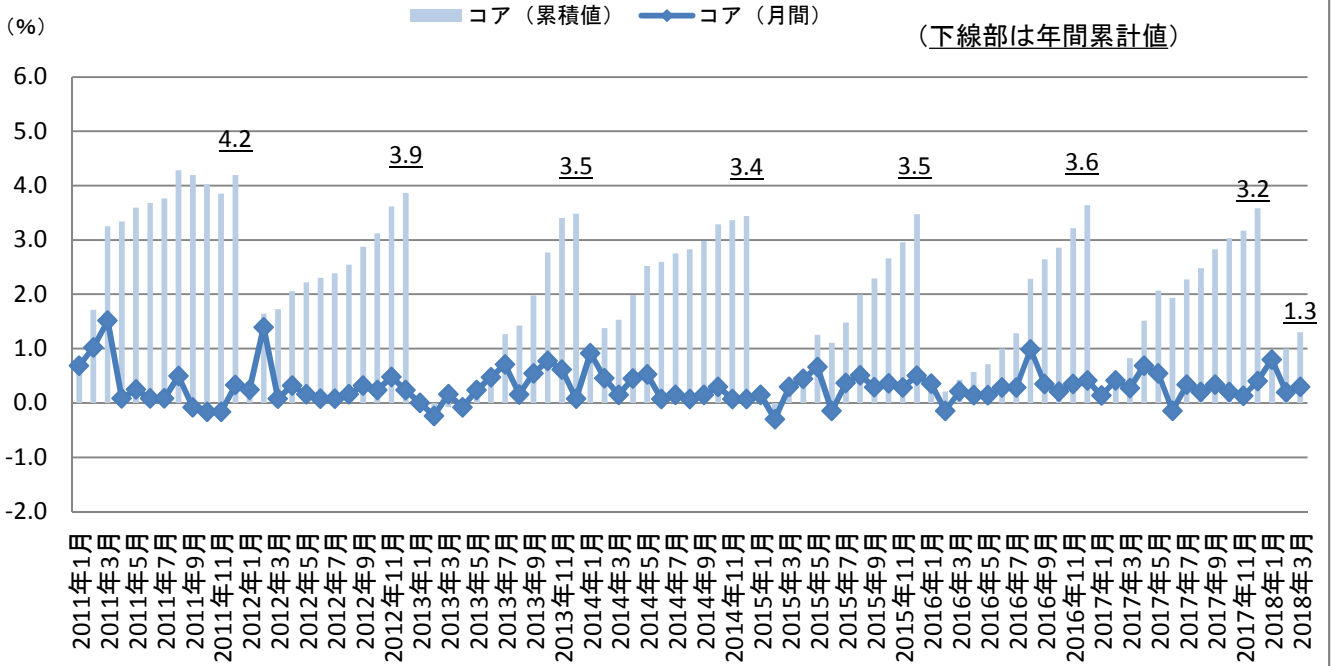
#### (2) コア・インフレ

3月のコア・インフレ率は0.0%となり、年間累計値は1.1%となった。

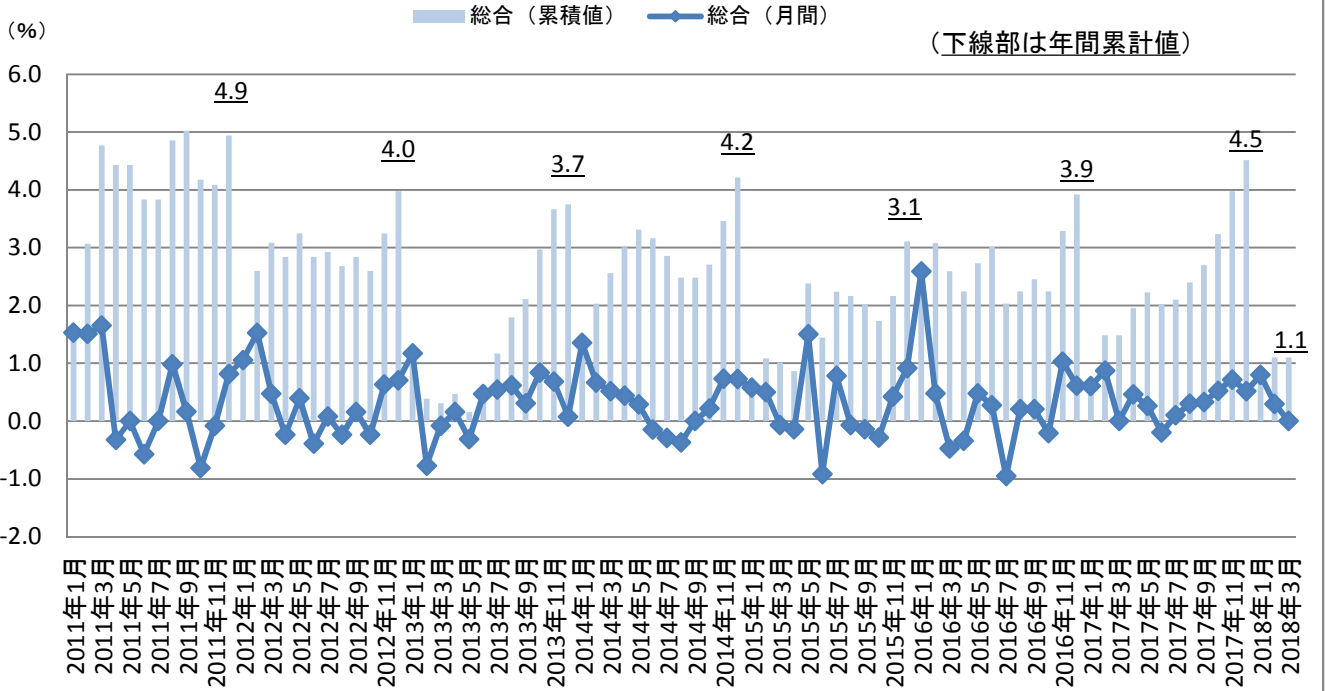
### 2 消費者物価指数一覧表 (2015年～2018年)

年/月	消費者物価指数(総合)(%)		コア・インフレ(%)	
	月間	累積	月間	累積
2015年 1月	0.6	0.6	0.1	0.1
2015年 2月	0.5	1.1	-0.3	-0.1
2015年 3月	-0.1	1.0	0.3	0.1
2015年 4月	-0.1	0.9	0.4	0.6
2015年 5月	1.5	2.4	0.7	1.3
2015年 6月	-0.9	1.4	-0.1	1.1
2015年 7月	0.8	2.2	0.4	1.5
2015年 8月	-0.1	2.2	0.5	2.0
2015年 9月	-0.1	2.0	0.3	2.3
2015年 10月	-0.3	1.7	0.4	2.7
2015年 11月	0.4	2.2	0.3	3.0
2015年 12月	0.9	3.1	0.5	3.5
2016年 1月	2.6	2.6	0.4	0.4
2016年 2月	0.5	3.1	-0.1	0.2
2016年 3月	-0.5	2.6	0.2	0.4
2016年 4月	-0.3	2.2	0.1	0.6
2016年 5月	0.5	2.7	0.1	0.7
2016年 6月	0.3	3.0	0.3	1.0
2016年 7月	-1.0	2.0	0.3	1.3
2016年 8月	0.2	2.2	1.0	2.3
2016年 9月	0.2	2.5	0.3	2.6
2016年 10月	-0.2	2.2	0.2	2.9
2016年 11月	1.0	3.3	0.3	3.2
2016年 12月	0.6	3.9	0.4	3.6
2017年 1月	0.6	0.6	0.1	0.1
2017年 2月	0.9	1.5	0.4	0.6
2017年 3月	0.0	1.5	0.3	0.8
2017年 4月	0.5	2.0	0.7	1.5
2017年 5月	0.3	2.2	0.5	2.1
2017年 6月	-0.2	2.0	-0.1	1.9
2017年 7月	0.1	2.1	0.3	2.3
2017年 8月	0.3	2.4	0.2	2.5
2017年 9月	0.3	2.7	0.3	2.8
2017年 10月	0.5	3.2	0.2	3.0
2017年 11月	0.7	4.0	0.1	3.2
2017年 12月	0.5	4.5	0.4	3.6
2018年 1月	0.8	0.8	0.8	0.8
2018年 2月	0.3	1.1	0.2	1.0
2018年 3月	0.0	1.1	0.3	1.3

## コア・インフレ率(前月比・累計値)



## インフレ率(前月比・累計値)



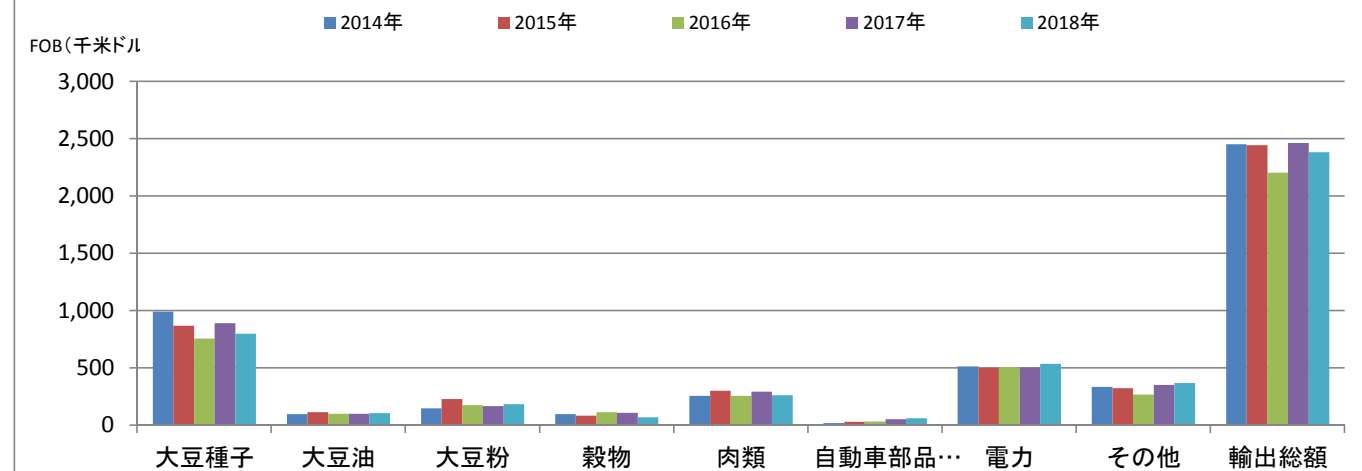
### Ⅲ 貿易

#### 1 主要輸出品目別輸出総額(1月～3月)

単位(千米ドル)

年/月	大豆種子	大豆油	大豆粉	穀物	肉類	自動車部品 (ハーネス)	電力	その他	輸出総額
2014年 1月～3月	990,510	96,001	146,205	97,406	254,791	18,424	513,224	334,685	2,451,247
2015年 1月～3月	867,870	113,843	227,392	81,817	301,069	29,151	497,949	323,792	2,442,882
2016年 1月～3月	754,766	98,183	174,212	113,274	256,670	32,539	505,976	267,143	2,202,763
2017年 1月～3月	889,870	99,701	166,029	108,816	293,418	51,826	502,293	350,348	2,462,302
2018年 1月～3月	798,481	105,007	182,453	69,540	262,502	60,938	536,159	366,352	2,381,431
前年比度(2017/2018)	-10.3%	5.3%	9.9%	-36.1%	-10.5%	17.6%	6.7%	4.6%	-3.3%

#### 主要輸出品目別輸出総額(2018年1月～3月)

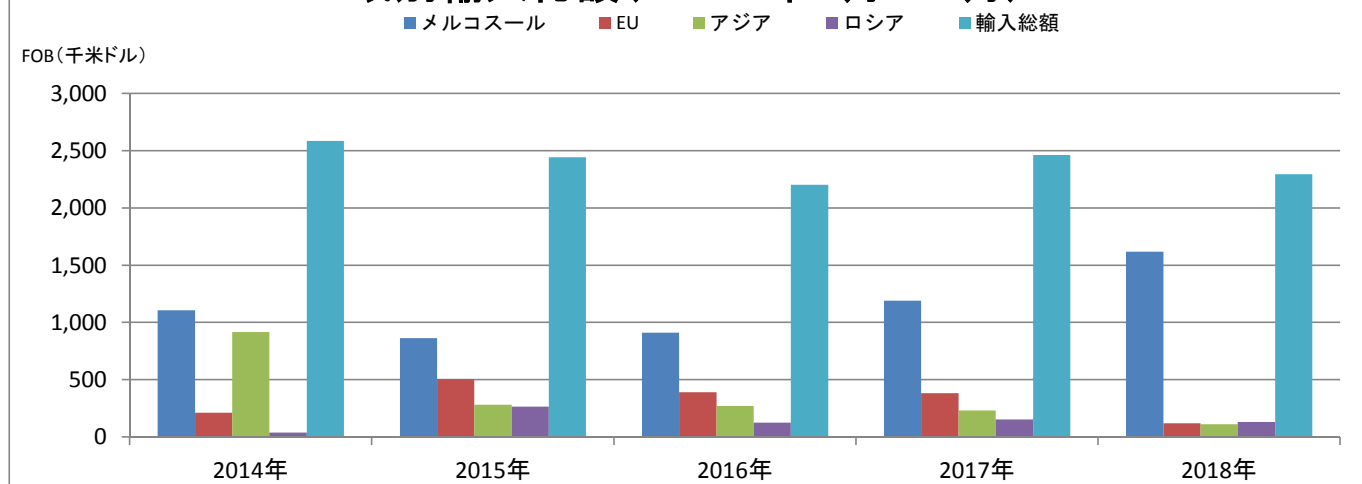


#### 2 輸入総額(1月～3月)

単位(千米ドル)

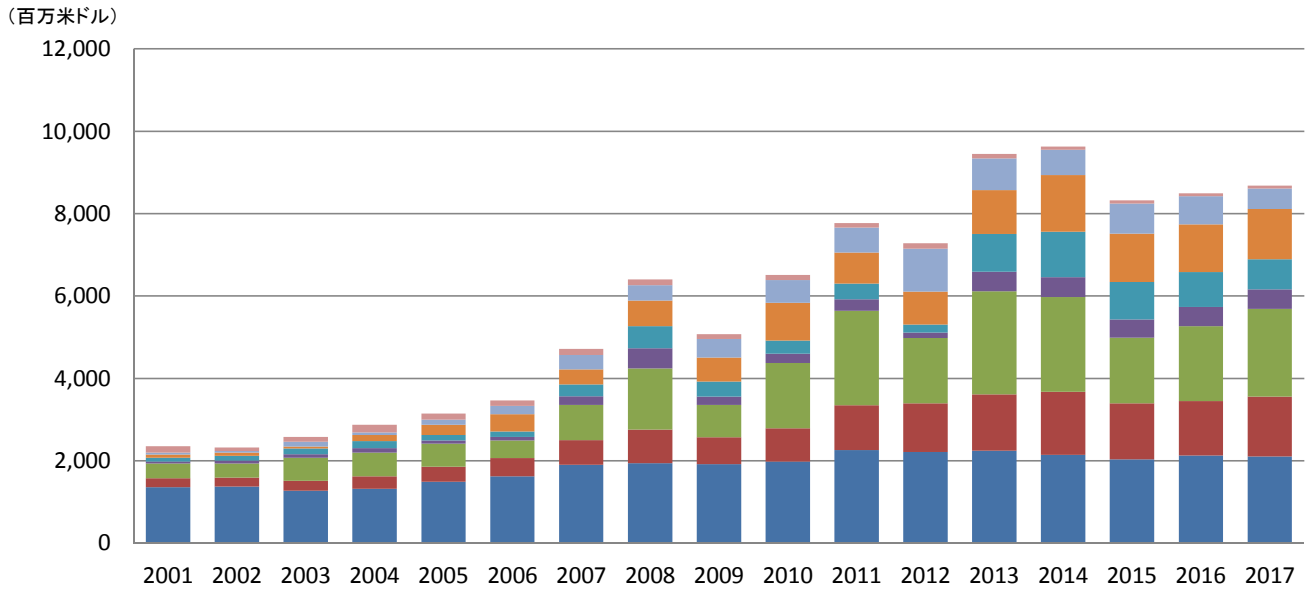
年/月	メルコスール	EU	アジア	ロシア	その他	輸入総額
2014年 1月～3月	1,108,529	213,170	917,534	39,495	308,309	2,587,037
2015年 1月～3月	863,975	506,621	283,026	266,535	522,725	2,442,882
2016年 1月～3月	912,721	392,401	272,319	125,439	499,882	2,202,763
2017年 1月～3月	1,192,351	383,987	231,301	152,387	502,276	2,462,302
2018年 1月～3月	1,619,947	120,122	112,923	130,554	313,606	2,297,152
前年比度(2017/2018)	35.9%	-68.7%	-51.2%	-14.3%	-37.6%	-6.7%

#### 域別輸入総額(2018年1月～3月)



## 主要輸出品目別

■ 電力 ■ その他（工業産品含） ■ 大豆種子 ■ 大豆油 ■ 大豆粉 ■ 肉類 ■ 穀物類 ■ その他農産品

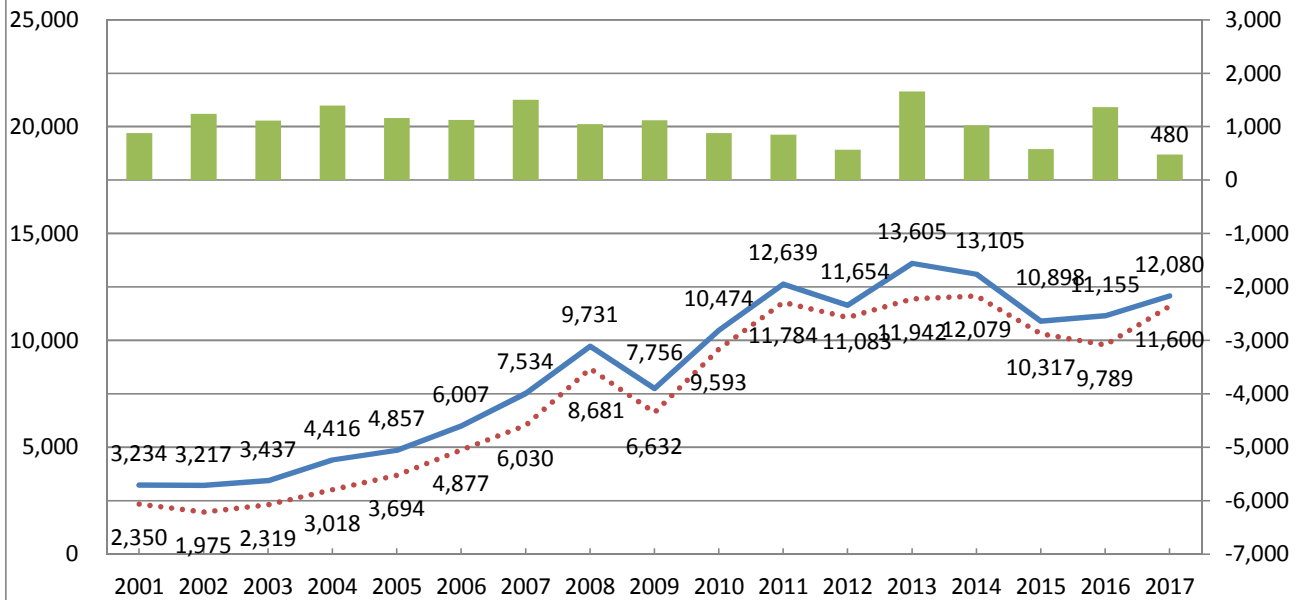


## 貿易(輸出入総額・貿易収支)

輸出入  
(百万米ドル)

■ 貿易収支 ■ 輸出

貿易収支  
(百万米ドル)



#### IV 外貨準備高

##### 1 外貨準備高概要

3月末の外貨準備高は、約8,775百万米ドルであった。

##### 2 外貨準備高一覧(年末値, 月末値)

(2014年~2018年)

(百万米ドル)

年	年末値
2000年 12月	723
2001年 12月	641
2002年 12月	983
2003年 12月	1,168
2004年 12月	1,293
2005年 12月	1,703
2006年 12月	2,462
2007年 12月	2,864
2008年 12月	3,861
2009年 12月	3,861
2010年 12月	4,168
2011年 12月	4,984
2012年 12月	4,994
2013年 12月	5,871
2014年 12月	6,891
2015年 12月	6,200
2016年 12月	7,144
2017年 12月	8,140

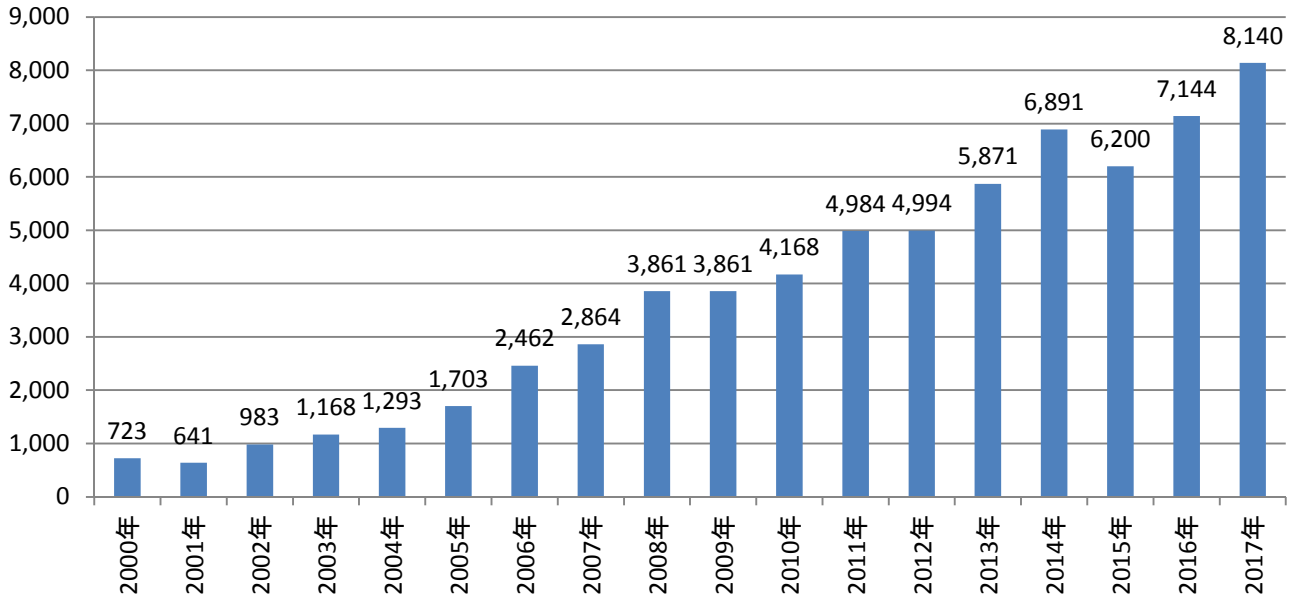
(百万米ドル)

年	月末値
2014年 1月	5,720
2014年 2月	5,768
2014年 3月	6,022
2014年 4月	6,202
2014年 5月	6,333
2014年 6月	6,377
2014年 7月	6,275
2014年 8月	7,247
2014年 9月	7,130
2014年 10月	7,001
2014年 11月	7,050
2014年 12月	6,891
2015年 1月	6,806
2015年 2月	6,721
2015年 3月	6,672
2015年 4月	7,066
2015年 5月	7,077
2015年 6月	7,100
2015年 7月	6,902
2015年 8月	6,771
2015年 9月	6,508
2015年 10月	6,336
2015年 11月	6,247
2015年 12月	6,200
2016年 1月	6,001
2016年 2月	5,858
2016年 3月	6,633
2016年 4月	6,829
2016年 5月	6,867
2016年 6月	6,882
2016年 7月	6,851
2016年 8月	6,902
2016年 9月	7,000
2016年 10月	6,924
2016年 11月	6,896
2016年 12月	7,144
2017年 1月	7,083
2017年 2月	7,173
2017年 3月	7,803
2017年 4月	7,811
2017年 5月	7,909
2017年 6月	8,007
2017年 7月	8,016
2017年 8月	8,067
2017年 9月	8,100
2017年 10月	7,971
2017年 11月	8,020
2017年 12月	8,140
2018年 1月	8,156
2018年 2月	8,183
2018年 3月	8,775



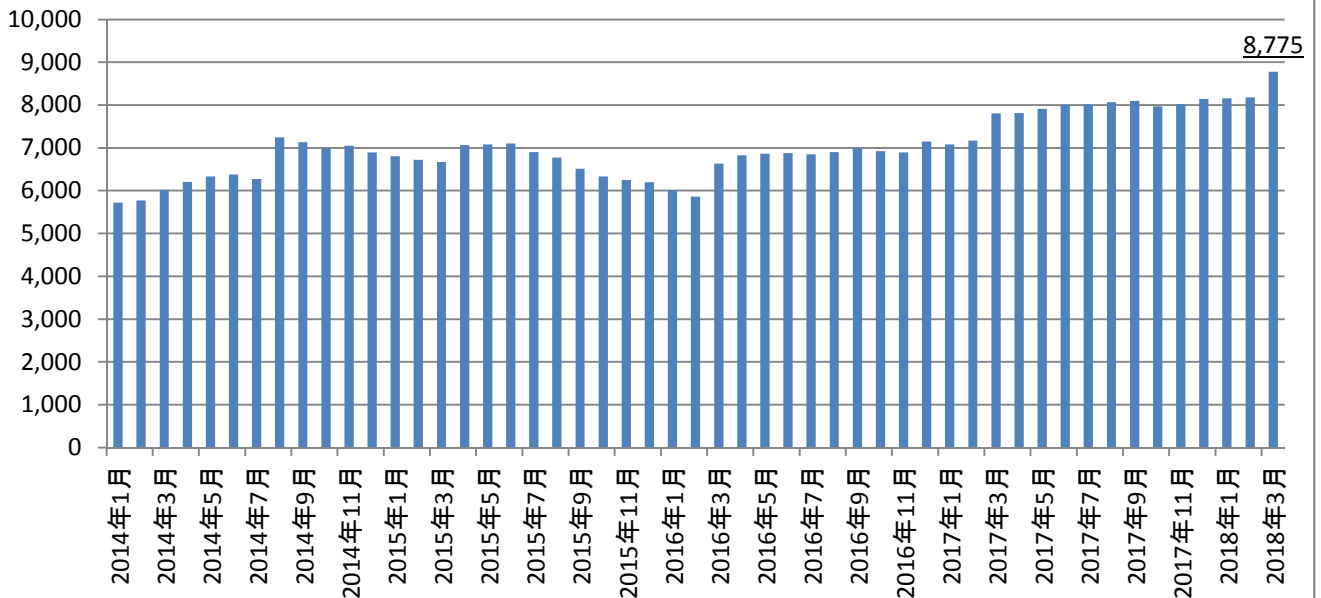
## 外貨準備高：年末値

(百万米ドル)



## 外貨準備高：月末値(2014年～2018年)

(百万米ドル)



## V 対外累積債務

### 1 対外累積債務概要

1月末の対外累積債務は、約5,601百万米ドルであった。

### 2 対外累積債務一覧(年末値, 月末値) (千米ドル)

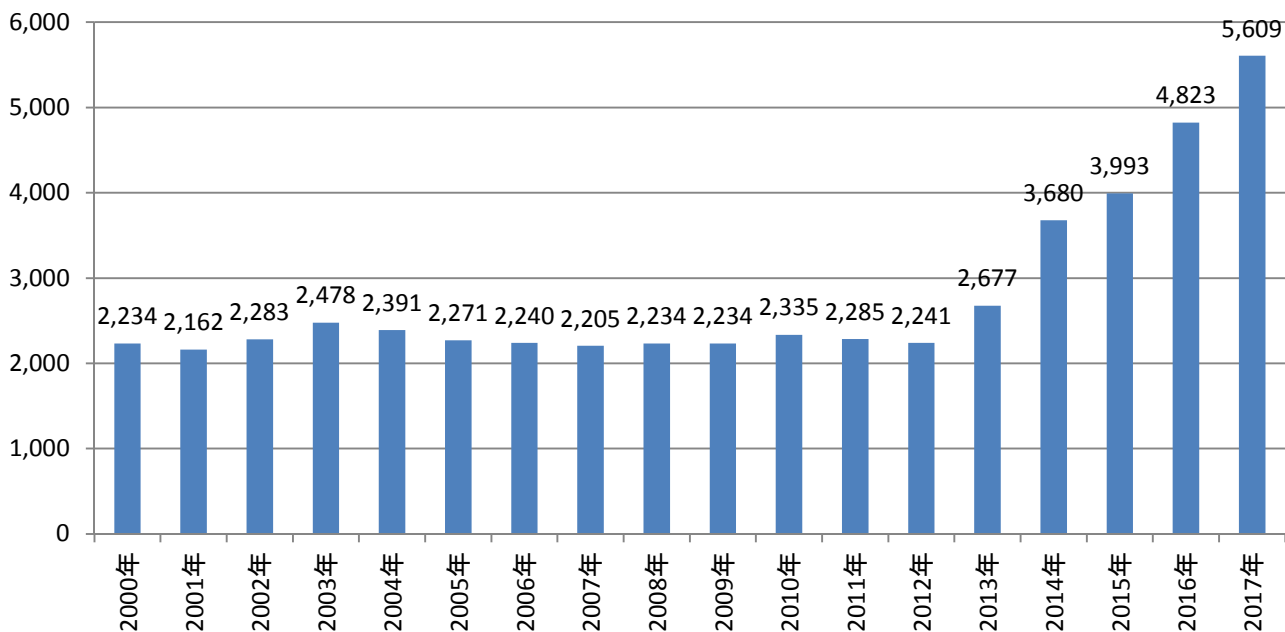
年	年末値
2000年 12月	2,234,322
2001年 12月	2,162,407
2002年 12月	2,283,051
2003年 12月	2,477,573
2004年 12月	2,390,687
2005年 12月	2,271,139
2006年 12月	2,240,448
2007年 12月	2,205,330
2008年 12月	2,234,198
2009年 12月	2,234,233
2010年 12月	2,335,425
2011年 12月	2,284,723
2012年 12月	2,241,060
2013年 12月	2,677,032
2014年 12月	3,679,598
2015年 12月	3,993,084
2016年 12月	4,822,606
2017年 12月	5,608,640

### (2014年~2018年) (千米ドル)

年	月末値
2014年 1月	2,664,342
2014年 2月	2,656,189
2014年 3月	2,681,312
2014年 4月	2,690,146
2014年 5月	2,683,411
2014年 6月	2,677,604
2014年 7月	2,660,660
2014年 8月	3,648,831
2014年 9月	3,629,087
2014年 10月	3,628,449
2014年 11月	3,604,216
2014年 12月	3,679,598
2015年 1月	3,679,212
2015年 2月	3,670,452
2015年 3月	3,665,989
2015年 4月	3,931,070
2015年 5月	3,932,823
2015年 6月	3,934,322
2015年 7月	3,913,548
2015年 8月	3,918,582
2015年 9月	3,923,794
2015年 10月	3,907,839
2015年 11月	3,901,630
2015年 12月	3,993,084
2016年 1月	3,979,611
2016年 2月	3,976,494
2016年 3月	4,571,208
2016年 4月	4,632,521
2016年 5月	4,645,744
2016年 6月	4,661,321
2016年 7月	4,664,740
2016年 8月	4,652,052
2016年 9月	4,656,467
2016年 10月	4,656,042
2016年 11月	4,671,876
2016年 12月	4,822,606
2017年 1月	4,829,851
2017年 2月	4,833,956
2017年 3月	5,351,630
2017年 4月	5,344,427
2017年 5月	5,472,838
2017年 6月	5,533,131
2017年 7月	5,540,885
2017年 8月	5,579,692
2017年 9月	5,579,692
2017年 10月	5,535,177
2017年 11月	5,578,579
2017年 12月	5,608,640
2018年 1月	5,600,961

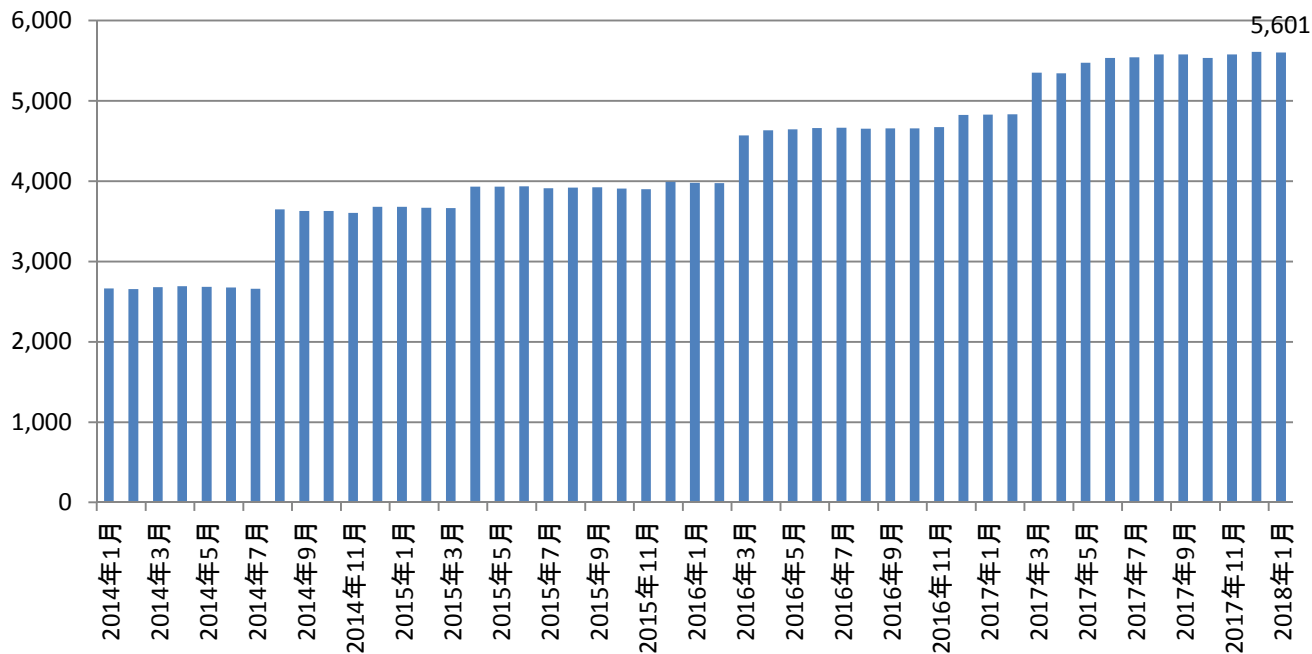
## 対外累積債務：年末値

(百万米ドル)



## 対外累積債務：月末値(2014年～2018年)

(百万米ドル)



## VI 最低賃金・失業率

### 1 最低賃金の推移

2016年11月までは、直近の最低賃金改定月以降の消費者物価指数を累計し、右累積値が10%を超えるごとに、最低賃金を改定していたが、法律第5764号(2016年11月発布)が施行されたことにより、最低賃金は、消費者物価指数に応じ、毎年6月に改定される。2017年6月の改定では、最低賃金は3.9%引上げられ、2,041,123グアラニとなった。

#### (1)最低賃金の改定歴

期間	最低賃金(グアラニ)	増加率
2005/1/1 ~ 2005/3/31	972,413	
2005/4/1 ~ 2006/3/31	1,089,103	
2006/4/1 ~ 2007/9/30	1,219,795	
2007/10/1 ~ 2009/4/30	1,341,775	
2009/5/1 ~ 2010/6/30	1,408,864	
2010/7/1 ~ 2011/3/31	1,507,484	10%
2011/4/1 ~ 2014/2/28	1,658,232	10%
2014/3/1 ~ 2016/11/30	1,824,055	7.7%
2016/12/1 ~ 2017/6/30	1,964,507	3.9%
2017/7/1 ~	2,041,123	-

### 2 失業率

2017年発表の統計・国勢調査局(DGEEC)「EPH 2016」において、2016年の全国の失業率は6.0%であった旨発表された。

2017年12月発表の統計・国勢調査局(DGEEC)「ECM」において、アスンシオン市及び大都市圏の2017年失業率(第3四半期時点)が7.6%であった旨発表された。

#### 失業率(年末値)推移:全国

期間	失業率(%)
2010年	6.0
2011年	6.0
2012年	7.9
2013年	8.1
2014年	6.5
2015年	5.3
2016年	6.0
2017年	

出典: DGEEC: ENCUESTA PERMANENTE DE HOGARES

#### 失業率(四半期)推移:アスンシオン市及び大都市圏

期間	失業率(%)
2014年第1四半期	9.1
2014年第2四半期	7.7
2014年第3四半期	7.7
2014年第4四半期	6.5
2015年第1四半期	7.6
2015年第2四半期	6.7
2015年第3四半期	6.0
2015年第4四半期	5.5
2016年第1四半期	7.6
2016年第2四半期	8.9
2016年第3四半期	6.9
2016年第4四半期	7.4
2017年第1四半期	8.4
2017年第2四半期	8.9
2017年第3四半期	7.6
2017年第4四半期	

出典: DGEEC, ENCUESTA CONTINUA DE EMPLEO

## VII 実質GDP・名目GDP・経済成長率(パラグアイ中央銀行発表)

### 1 実質GDP(基準:1994年)・名目GDP

単位:千米ドル

年	名目GDP	実質GDP (基準:1994年)
2000	8,207,164	8,588,449
2001	7,662,152	8,516,817
2002	6,326,170	8,514,994
2003	6,588,266	8,882,905
2004	8,060,401	9,243,322
2005	8,772,074	9,440,527
2006	10,662,013	9,894,345
2007	13,837,526	10,430,779
2008	18,504,761	11,094,084
2009	15,954,961	10,654,127
2010	20,028,376	12,049,072
2011	25,149,416	12,572,292
2012	24,690,711	12,416,525
2013※	28,914,736	14,159,343
2014※	30,657,222	14,827,994
2015※	27,373,818	15,267,234
2016※	27,645,140	15,880,909
2017※	29,734,895	16,560,309

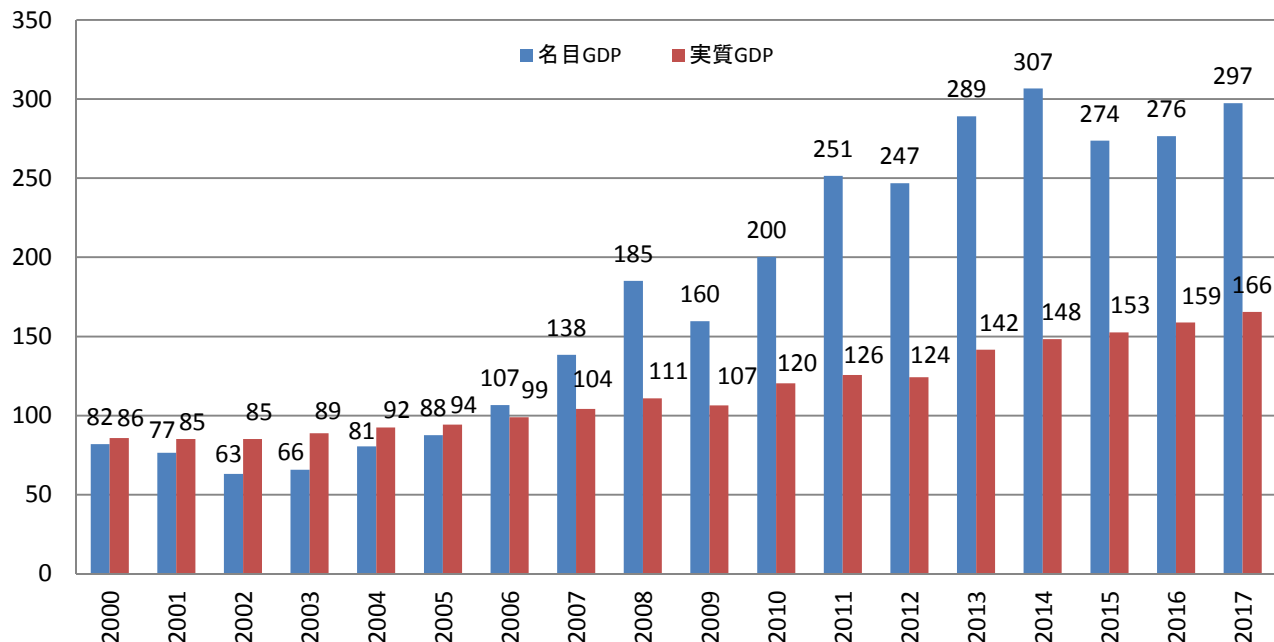
### 2 経済成長率

単位:%

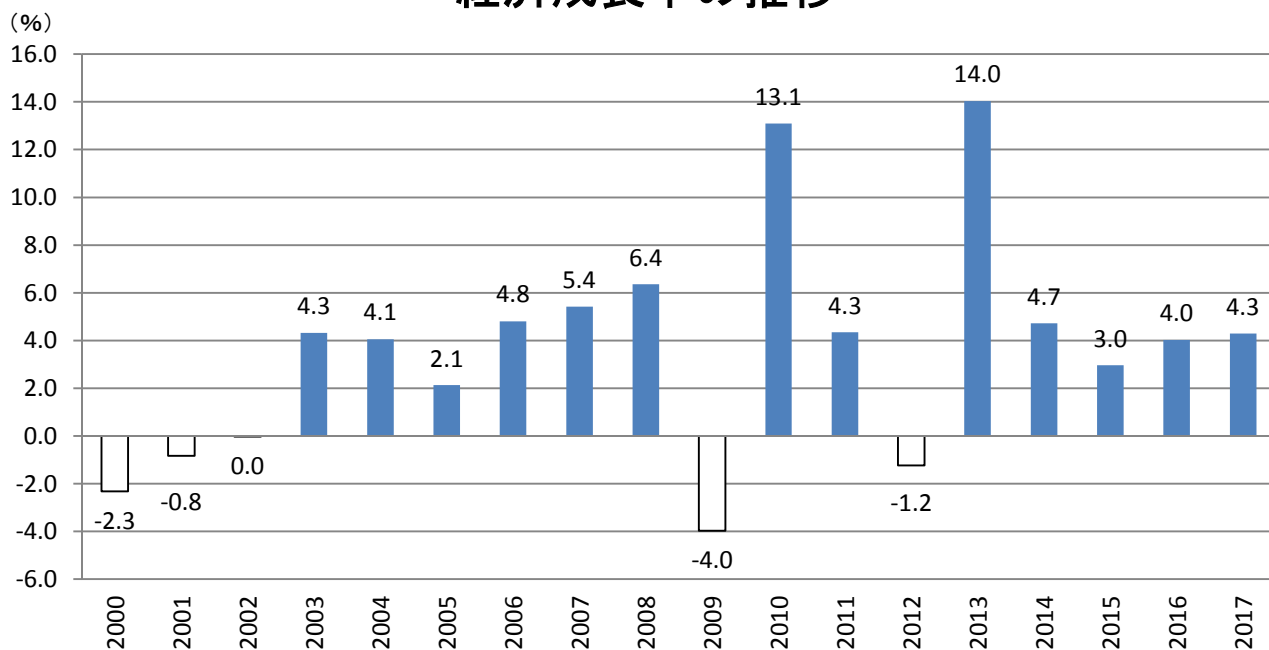
年	経済成長率
2000	-2.3
2001	-0.8
2002	0.0
2003	4.3
2004	4.1
2005	2.1
2006	4.8
2007	5.4
2008	6.4
2009	-4.0
2010	13.1
2011	4.3
2012	-1.2
2013※	14.0
2014※	4.7
2015※	3.0
2016※	4.0
2017※	4.3

(億米ドル)

## 名目GDPと実質GDPの推移



## 経済成長率の推移



## Ⅶ 3月 の経済トピックス

### 1 1月～2月、マキラの輸出が昨年同期比81%増加

1日、商工省が発表したデータによると、1月及び2月のマキラ制度を利用した輸出額は9,900万米ドル、昨年同期から4,400万米ドル(81%)増加した。

商工省幹部は、「パラグアイの工業は、マキラ法の下、昨年同期と比べて輸出額が上昇している。」と述べた。多く輸出された品目は、自動車部品、既製服及び布類、プラスチック、並びに皮革・皮革関連商品である。

輸出先は、92%がメルコスールであり、残りの8%に、米国、タイ、エクアドル、チリ、エルサルバドル、台湾、メキシコが続く。

### 2 チリへのパラグアイ産牛肉輸出減少

2日、チリ農業省が発表したレポートによると、本年1月のチリにおけるパラグアイ産輸入牛肉のシェアは、37.8%と前年同期比9.7%減少し、チリにおけるシェア1位の座をブラジルに譲り2位に陥落した。各国からの輸入量は、ブラジル6,881トン、パラグアイ6,123トン、アルゼンチン2,081トン、米国732トン、ウルグアイ337トンとなった。

他方、チリにおいてパラグアイ産牛肉の3.3%の価格上昇がみられた。2017年1月に1トン4,927米ドルが、2018年同期には1トン5,088米ドルであった。チリ政府は、同国へ牛肉を輸出しているパラグアイの冷凍事業企業5社(Frigomerc, Mussa, Ipfsa, Guarani, Nav&Com)との取引を一時停止している。

パラグアイ牧畜協会(ARP)のレポートによると、チリにおける牛肉輸入制限を受けて、ロシア市場での供給拡大が期待されている。

### 3 国際金融市場における国債発行

9日、ヒメネス財務大臣は、国際金融市場において、5億3,000万ドルの国債を発行した旨を発表した。投資家は、国債を30年債、5.6%の利回りにて購入した。ヒメネス大臣によると、債権の入札には、180以上の投資家が参加し、発行数の約5倍の需要(26億5,000万米ドル)があった。米国を訪れていた同大臣とフェルナンデス中央銀行総裁は、国債発行の成功を強調し、本件の結果は、パラグアイ経済の堅実さを示していると述べた。

2013年から2017年、パラグアイは、ニューヨーク株式市場を通じて、国際市場で28億8,000万米ドルの国債を発行してきた(2013年に5億米ドル(10年債、利回り4.625%)、2014年に10億米ドル(30年債、利回り6.10%)、2015年に2億8,000万米ドル(8年債、利回り4.15%)、2016年に6億米ドル(10年債、利回り5%)、2017年に5億米ドルを発行)。2018年は、6億200万米ドルの国債を発行可能であり、半分が公的債務償還、残り半分が投資及び多方面の資本組入に割り当てられる。

### 4 ラガルドIMF専務理事のパラグアイ訪問

13日から15日にかけて、ラガルドIMF専務理事がパラグアイを来訪し、カルテス大統領を表敬した。ラガルド専務理事がパラグアイを訪問するのは、今回が初めてとなる。ラガルド専務理事は、表敬の後、「パラグアイは、中南米において最も強固な経済をもった国のひとつである。いままで必ずしも良好でなかった世界の経済状況のなかで、パラグアイは堅実な成長を遂げてきた。いま世界経済は持ち直しているため、パラグアイ経済への大きな支えになるであろう。」と述べた。

ラガルド専務理事は、ツイッターで、カルテス政権下における強固な経済を賞賛した。それに対してカルテス大統領は、ラガルド専務理事のツイートは、近年のパラグアイの潜在性とすばらしい経済状況を承認するものである旨返答した。

14日、同専務理事は、サンフランシスコ地区、シウダ・ムヘルを視察した後、ヒメネス財務大臣とともに、パラグアイの女性リーダーと会談した。

同日、ラガルド専務理事は、中銀において、一般聴衆向けの講演会を行った。同講演会には、フェルナンドパラグアイ中央銀行総裁、ヒメネス大臣等が同席した。講演会の中で、同専務理事は、財政責任法及びインフレ目標設定等の強固なマクロ経済政策の成果による経済成長を賞賛したが、一方で格差については、テコポラ計画(貧困緩和政策)により多少減少したものの、「失業及び格差とともに、貧困をより減少させなければならない。」と述べた。

また、同専務理事は、男女間の経済参加のギャップが減少できれば、経済は10%成長すると指摘し、機会向上のための教育及び衛生への投資のよい理由づけになる旨述べるとともに、「屋根を直すため、太陽が照っている。パラグアイには太陽が照っており、経済成長を強固にする絶好の機会であると思う」と付言した。

パラグアイの債務に関して、IMFに懸念はない旨述べ、すべての国が債務の状況を注視しなければならない旨指摘したうえで2つの事柄を推奨した。ひとつめに、投資の質、支出の効率性及び(政策等の)運営に注力することを挙げ、ふたつめに政府が国内外からの借款、及び効率的な税徴収等を実行することで、資金調達を多様化することを挙げた。

### 5 「ハイレベル官民対話 アスンシオン・パラグアイ2018」開催

19日及び20日、アスンシオンで「ハイレベル官民対話 アスンシオン・パラグアイ2018」が開催された。本セミナーは、メルコスール議長国の枠組みにおいてLIDEビジネスリーダー・グループが主催したもの。本セミナーはパネル・ディスカッション方式で行われ、ロイスガ外務大臣及びレイテ商工大臣の他、メディナ農牧大臣、カブレラ・アルゼンチン工業生産大臣、アサンブジャ南マットグロソ州知事、並びにメルコスール各国の企業関係者がパネリストとして登壇し、「メルコスールFTAの状況」「世界に向けた食糧供給」等をテーマに、パラグアイ及びメルコスールの現状及び民間企業との連携について対話が行われた。なお、開会式にはカルテス大統領が出席し、各国大使が本セミナーに招待された。

20日、レイテ大臣は、食糧供給に関するセッションに登壇した際、食糧輸出に関し、メルコスール域内各国が協力して、高品質で健康的な製品を生産することで差別化をはかり、メルコスールをブランド化していくことの重要性につき述べた。また、同大臣は、「パラグアイにとっての問題は、供給先の市場が不足していることにある。市場の不足は、(食糧)加工工場の拡充を慎重にさせる。そういった意味で、メルコスールというブロックで(市場拡大に向けて)交渉していくことが肝要である。EU・メルコスールFTAが妥結すれば市場を獲得することになるだろう。」と述べた。他のパネリストからも同様に加工品の重要性について言及があり、差別化したメルコスール・ブランドのもと第一次産品を加工して輸出していくべきとの発言があった。